# デイサービスの防火・防災　職員さん用の1枚

動画「デイサービスの防火・防災（約5分）」と一緒に使います。ご利用者さんと職員さんが一緒に見て学ぶ動画です。レクリエーションの時間にも、消防訓練の日にも使えます。

## 1. 訓練の前に（前日までに）

- ☐ 消防計画に沿って、消防署へ訓練の連絡をした（防火管理者を置いている事業所は、消火・避難の訓練を年2回以上行い、前もって消防署へ通報する決まりです）
- ☐ 消火器のラベルを見た：炎や電気の**絵がある**のが新しい型／**文字だけ**なら古い型（今は置けない）。使用期限も確かめた
- ☐ 防火戸の前に物を置いていない／戸をくさびで開けっぱなしにしていない
- ☐ 車いすをご利用者さんの近くに置く段取りを決めた
- ☐ 役を決めた：通報＿＿＿＿　消火＿＿＿＿　避難誘導＿＿＿＿　人数確認＿＿＿＿（新しい職員さんにも消火器と通報の役を）

## 2. 当日の順番

動画 約5分 → 地震の身の守り → 「火事だー」で知らせる → 119番通報 → 消火（水消火器） → 避難 → 人数の確認

## 3. 押さえどころ

- 119番は**「火事です」**から → 住所（事業所の名前）→ 目標の建物 → 電話番号 → 何が燃えているか
- 消火器：**ピンを抜く → ホースを火元に → レバーを強くにぎる**。ねらうのは火の根元。出入り口を背に。ピンは火元の7〜8m手前の安全な場所で抜く
- **炎が天井に届いたら、消すのをやめて逃げる**
- 避難は「おかしも」。エレベーターは使わない。火の出た部屋から先に出て戸を閉める。車いすの方が出口で止まらないよう、順に先へご案内する
- 非常口のマーク：緑の地に白い人＝非常口／白の地に緑の矢印＝非常口への道。ご利用者さんとふだんから場所を確かめる

## 4. 電話のそばに貼る欄

**火事です。**

**住所**　＿＿＿＿＿＿

**事業所の名前**　＿＿＿＿＿＿

**目標の建物**　＿＿＿＿＿＿

**この電話の番号**　＿＿＿＿＿＿

## 5. 記録・口頭報告の文例（〇を書きかえて使えます）

〇月〇日〇時より、消防訓練を行いました。はじめに動画で、ご利用者さんと一緒に火事と地震のときの身の守り方を確かめました。そのあと、地震を想定した身を守る訓練を行い、火災を想定して、通報・消火（水消火器）・避難の訓練を行いました。参加は職員〇名、ご利用者〇名です。気づいた点：〇〇〇〇。次回までに：〇〇〇〇。

## 6. 2026年に新しくなったこと／あらためて確かめたいこと

- 3月：内閣府「避難情報に関するガイドライン」改定（警戒レベルに当たる情報の名称の整理など）。以前の版から続けて、デイサービスの利用中に避難が必要になったとき、**ご家族と避難するか、施設で避難するかを前もって決めておく**のが望ましいとされている
- 5月29日：気象庁の防災気象情報が新しくなった。大雨・土砂災害・河川の氾濫・高潮に「レベル4 危険警報」ができた
- 以前からの決まり：災害の業務継続計画（BCP）の訓練は、非常災害対策の訓練と一緒に行ってよい（厚生労働省の解釈通知）

この1枚と動画は訓練の前の学習用です。訓練の回数や方法は、所轄の消防署・自治体の決まりに従ってください。内容は総務省消防庁・東京消防庁・厚生労働省・内閣府・気象庁の公表資料で確かめました（2026年11月時点）。 デイの豆知識